

病源候論癩疽候又云癩疽之狀肉生小黯點小者如粟豆大者如梅李或赤或黑乍青乍白有實核燥痛應心或著身體其著手指者似代指又云發五臟俞節解相應通洞癩疽也又齒間臭熱血出不止癩疽也又云十指端忽然策々痛入心不可忍向明望之晃々黃赤或黯々青黑是癩疽是癩疽發無定處今俗謂獨發在手指爲癩疽非是也

〔伊呂波字類抄〕癩疽病癩部 癩疽ヘウソ

〔下學集〕支上體癩疽病指也

〔雲錦隨筆〕癩疽には梅干を黒焼にし黏にて塗てよし又海人草と菅と古き茶袋とを黒焼にして黏に合せて塗もよし又一年ばかりの干大根を煎じ數回指を漬てよし又螢を粘飯にて練合せて塗てもよし

〔瘍科秘録〕癩疽

癩疽ノ癩ハ癩ヲ本字トス病源ニハ已ニ癩ニ作レリ史記相如傳ニ雷動癩至ト見ユ癩ハ火ノ飛貌ナリ迅速ノ病ユヘ癩疽ト名ツケタルナリ本邦ニテハ指ニ限リテ發スルモノヤウニ云傳ヘテアレドモ四支胸背ヘモ亦發スルコトアリ病源千金外臺等ノ論ヲ讀テ知ルベシ然レドモ先ツ指ニ發スルコト多ク他ヘ發スルコトハ少シ故ニ指ニ限ルヤウニ心得タルナルベシ今ニテハ指病ノ總名トナレリ

〔梅園叢書〕物の命をたつともまた助くる理ありといふ論○中略

癩疽といへる腫物の甚しきを指をきりて療治する事あり齒などのゆるぎいたむに此齒をぬきてさる事あり

〔理齋隨筆〕癩疽の藥にはみかんのたねを黒焼にしてのりにませて付る此藥のどけには管を以咽に吹入るべし